

2014年7月吉日
省エネルギー行動研究会 会長 中上 英俊

BECC JAPAN 2014 開催のご案内

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

省エネルギー行動研究会は、消費者の省エネルギー行動を主題とした日本初のコンファレンスである「BECC JAPAN 2014」を来る2014年9月16日(火)～17日(水)に開催いたしますので、ご案内申し上げます。

近年、エネルギーと気候変動(地球温暖化)の問題に対処するため、従来の技術的・工学的アプローチによる対策に加えて、人間の行動に関する科学的知見を政策やサービスに応用し、省エネルギー行動や環境配慮行動を促進する試みが、世界的に盛んになっています。省エネルギーに留まらず、行動科学の成果を政策や商品・サービスの改善に応用する取り組みは今後、我が国でも発展が期待されます。

本コンファレンスでは、欧米の専門家による基調講演2件に加えて、国内外の関連研究分野からの一般講演20件を企画しております。企業、官公庁・自治体・団体、大学・研究機関など幅広い分野の皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

記

【開催概要】

- 名称：BECC JAPAN 2014
- 日時：2014年9月16日(火) 9:30～17:35 (交流会 18:00～19:30)
17日(水) 午前 10:00～12:30・午後 13:00～15:30
- 会場：(9月16日 本会議) 東京大学 伊藤国際学術研究センター
(9月17日 施設見学会) 磯子スマートハウス
- 定員：(9月16日) 200名(予定)
(9月17日) 40名(午前・午後 各20名、抽選)
- 参加費：一般 20,000円、教育・研究機関 15,000円、学生 5,000円、交流会 6,000円
- 主催：省エネルギー行動研究会
- 協賛：東京ガス株式会社、大阪ガス株式会社、電気事業連合会、OPOWER JAPAN 株式会社、
一般社団法人日本ガス協会
- 後援(予定)：環境省、経済産業省、
一般社団法人日本エネルギー学会、一般社団法人エネルギー・資源学会
- 協力：日本消費者教育学会
- 詳細：省エネルギー行動研究会のWEBサイト (<http://seeb.jp/>) をご覧ください

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

省エネルギー行動研究会事務局(株式会社 住環境計画研究所内) 担当：荒井、玄、平山
TEL：03-3234-1177 E-mail：info(at)seeb.jp ((at)は@に書き換えてください)

BECC JAPAN 2014 プログラム

(1) 9月16日(火) 本会議

時間	プログラム	
9:00~9:30	受付開始	
9:30~9:50	オープニングセレモニー(会場1) 開会挨拶: 省エネルギー行動研究会 会長 中上英俊 来賓挨拶: 環境省 地球環境局 地球温暖化対策課長 土居健太郎 経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー対策課長 辻本圭助 国土交通省 住宅局 住宅生産課 建築環境企画室長 淡野博久	
9:50~11:05	セッション1: 「欧米の省エネルギー行動変容事例報告」(ファシリテータ: 東京大学 前真之)(会場1)	セッション2: 「省エネルギー行動変容と教育取り組み事例」(ファシリテータ: 横浜国立大学 松葉口玲子)(会場2)
11:05~11:15	休憩	
11:15~12:30	セッション3: 「行動経済学から考える省エネルギー行動」(ファシリテータ: 一橋大学 竹内幹)(会場1)	セッション4: 「エネルギーの見える化と省エネルギー行動」(ファシリテータ: 住環境計画研究所 鶴崎敬大)(会場2)
12:30~13:30	ランチ休憩	
13:30~15:10	セッション5: 「省エネルギー行動変容とその効果の検証」(ファシリテータ: 東京都市大学 坊垣和明)(会場1)	セッション6: 「社会心理学的アプローチによる省エネルギーへの行動変容」(ファシリテータ: 慶應義塾大学 杉浦淳吉)(会場2)
15:10~15:30	休憩(コーヒーブレイク)	
15:30~16:30	基調講演Ⅰ: “Why energy is a social good and what this means for 'energy savings' research and policy agendas” (会場1) オスロ大学 文化人類学部 ハロルド・ウィルハイト 教授	
16:30~17:30	基調講演Ⅱ: “Behavior, Energy, and Climate Change: An Emerging Field of Action-Oriented Scholarship” (会場1) スタンフォード大学 プレコート・エネルギー効率センター マーガレット・テイラー博士	
17:30~17:35	閉会挨拶: 東京都市大学 都市生活学部 学部長 坊垣和明(会場1)	
18:00~19:30	交流会(会場2)	

※会場1: 地下2階 伊藤謝恩ホール(日英同時通訳付き)

会場2: 地下2階 多目的スペース

(2) 9月17日(水) 施設見学会

	時間	プログラム
午前	10:00	上大岡駅集合
	10:30-12:00	磯子スマートハウス視察
	12:30	上大岡駅解散
午後	13:00	上大岡駅集合
	13:30-15:00	磯子スマートハウス視察
	15:30	上大岡駅解散

(3) 一般講演（招待） プログラム詳細

・ セッション1：「欧米の省エネルギー行動変容事例報告」（ファシリテータ：東京大学 前真之）

1-1	米国の省エネ行動実証事例の紹介および国内展開における課題 ○前真之（東京大学）、川島範久（東京工業大学）
1-2	Variation in residential energy use among Americans: Statistics, Causes and Case Studies ○Sarah Outcault（Western Cooling Efficiency Center, University of California, Davis）
1-3	Lessons from Opower's behavior change programmes in the US and Europe ○Ken Haig（Opower）

・ セッション2：「省エネルギー行動変容と教育取り組み事例」（ファシリテータ：横浜国立大学 松葉口玲子）

2-1	欧米における省エネ教育の動向 ○山下宏文（京都教育大学）
2-2	家庭科における省エネ教育の動向と課題 ○工藤由貴子（横浜国立大学）
2-3	食教育における省エネ行動変容効果と評価法の検討 ○三神彩子（東京ガス）、長尾慶子、久松裕子（東京家政大学）、赤石記子（帝京平成大学）、杉浦淳吉（慶應義塾大学）、松葉口玲子（横浜国立大学）

・ セッション3：「行動経済学から考える省エネルギー行動」（ファシリテータ：一橋大学 竹内幹）

3-1	スマートメーターの節電効果：米国ハワイ州における 実証実験 ○樽井礼（ハワイ大学）
3-2	節電要請・変動料金と節電行動：けいはんなにおける社会実験 ○依田高典（京都大学）
3-3	技術、エネルギー、気候変動：家庭データからの行動分析 ○馬奈木俊介（東北大学）

・ セッション4：「エネルギーの見える化と省エネルギー行動」（ファシリテータ：住環境計画研究所 鶴崎敬大）

4-1	家庭向けデマンドレスポンス実証実験「1kWLove」の結果とその効果について ○谷口裕昭（NTT スマイルエナジー）
4-2	家庭ユーザーにとって省エネは“おまけ”でいい ～機器分離技術を用いた新しいエネルギー情報システム普及促進～ ○只野太郎（インフォメティス）
4-3	スマートエネルギーハウス居住実験における省エネ行動について ～省エネ行動と HEMS の関わりの視点からの評価結果～ ○石井幹也（大阪ガス）

・ セッション5：「省エネルギー行動変容とその効果の検証」（ファシリテータ：東京都市大学 坊垣和明）

5-1	既存研究から見た省エネ行動とその効果の分析および実証サイトの紹介 ○坊垣和明（東京都市大学）
5-2	高性能住宅における HEMS と省エネ行動の効果 ○須永修通（首都大学東京）、畑泰彦（積水化学工業）、小野寺宏子、遠藤裕太、川上裕司（首都大学東京）
5-3	温熱環境の知覚，体温調節行動と省エネルギー ○松原斎樹（京都府立大学）
5-4	省エネルギー・節電促進策としての” ナッジ” とマンションでの実証 ○西尾健一郎（電力中央研究所）

・ セッション6：「社会心理学的アプローチによる省エネルギーへの行動変容」（ファシリテータ：慶應義塾大学 杉浦淳吉）

6-1	行動変容への説得的コミュニケーションと行動によるコミットメント ○杉浦淳吉（慶應義塾大学）
6-2	周りの人がするなら自分も？ ー規範・観察が環境配慮行動に与える影響 ○安藤香織（奈良女子大学）
6-3	旭川エネエコプロジェクトにおける省エネ行動とその動機の変容：減衰型ポイント制度に関する社会心理学的視点からの提案 ○大沼進（北海道大学大学院）
6-4	日本低炭素社会実現に向けた生活者行動変容に関する分析-環境省中長期ロードマップ コミュニケーション・マーケティング WG の議論を参考に ○藤野純一（国立環境研究所）